

いう、続いて同じ世田谷区内のスーパーの駐車場と道路の地下に放射性物質があるようです。続報として 11 月 15 日瓶に入ったラジウムが掘り出され回収されましたが、相当古いもので何かの研究に使ったのを放置したようです。

11 月 3 日ソウル発、韓国でも福島原発事故の影響を心配し、ガイガーカウンターを持って調査していたところ路上で強い反応があり、毎時 3 μ Sv の前後のもので、それも複数箇所のあるところですから、福島原発の被害だと大きく報道されましたが、調査の結果はセシウム 137 が検出されたが、地表面ではなく道路の舗装内部からなので剥がして調査したところ、10 年位前に道路工事に使用したアスファルトに含まれた放射性物質らしいことが判明、ソウル全市の道路を調査することになった、と報じています。

放射線防護に関する国際学術団体である ICRP (国際防護委員会)、世界の専門家が結集して、専門的立場から放射線防護に関する勧告を行う民間団体の非営利団体で、公認の慈善団体、本部はイギリス、学術事務局はカナダ、支局は先進各国にあり、勿論我が国にもあります。

2007 年の勧告では、「1 年間の被曝限度となる放射線量は 1mSv 未満、緊急時には 20 ~ 100mSv、緊急事故後、復旧時には 1 ~ 20mSv と定めた。」

福島第一原発事故に関しての ICRP の勧告は「被曝線量の許容値を通常の 20 ~ 100 倍(20 ~ 100mSv) に引き上げることを提案した。但し、事故後も住民が住み続けるならば、1 ~ 20mSv を限界として、長期的には 1mSv 未満を目指すべき」と勧告した。

これを受けた内閣府、原子力安全委員会は「累積被曝量が 20mSv を超える地域については特別の防護策の措置を構うべきだ」と政府に提言した。

Q：放射線にも種類があるそうですが？

A：放射線という種類のモノではありません。自然界には様々な放射性物質が存在し、放射線を放出しているし、宇宙の彼方からも「宇宙線」が降る注ぎ(0.3mSv)、空気中(0.4mSv)、地面(0.4mSv)、食物(0.4mSv)、こうした放射性物質からの放射線を浴びたり、体内に取り入れたりして、日常的に受け入れている。

また、医療用として X 線、癌その他放射線による治療、日常生活の中に放射線は存在していた。従って日本国内では年間被曝量を 1.4mSv (1988 年・推定値とされていたが、改定値は 1.5mSv) としている。(現在は 1.0mSv)

現在、福島第一原発事故により、放射性物質(セシウム 137 等)が拡散し、チリやホコリとともに飛んできた放射性物質はあたり一面の地面や草木に付着し、広い範囲の地域が汚染され、これらの全体から受ける線が外部被曝になります。

他方、放射性物質に汚染された食物等を摂取した。放射性物質が浮遊しているところで呼吸した、といっても呼吸しない訳にはいかないから体内に入ってしまったのが内部被曝。

体内に入った放射性物質の多くは数時間から数十時間で体外へ排出されますが、体内に